兵庫県立淡路医療センター

初期臨床研修プログラム 2025

2024 年４月作成

兵庫県立淡路医療センターでの臨床研修の特色

地域の基幹病院・地域支援病院：軽症から重症まで幅広い疾患、豊富な症例

本院は淡路医療圏で唯一の公立病院であり、医療圏の中枢病院として、救急医療を含めた地域完結型医療を実践しています。さらに、地域における病診・病々連携の中心として、地域の医療環境を整備するため、2001 年に兵庫県初の「地域支援病院」として認可されました。

このような立場から、本院では地域医療を中心とした General Physician の育成を目標に、初期臨床研修を行っています。実際に淡路島での難病・重症患者はほぼ全例が本院に送られてくるため、都市部の病院と異なり多彩な疾患を診ることができます。

整った研修環境

研修体制も整備されており、例えば研修医は単独で診療に当たることは無く、副主治医として入院診療にあたり、当直も必ず指導医とともに当直し、研修医が医療において単独責任者になることはありません。また、研修医の多様な研修要望を満たすため兵庫県立病院で病院群を組んで研修にあたっており、研修プログラム２年目の選択科目では、専門型県立医療機関での研修を選択することも可能です。

２年間の研修後は、各科ごとに新専門医制度に則した体制を整えています。また、新専門医制度に配慮し、１年目の院内研修においてより自由度を広げ、志望科の考慮・選択に配慮したプログラムとしています。

研修ローテーション

本院では、原則として１年目に内科６ヶ月、外科３ヶ月、小児科１ヶ月、産婦人科１ヶ月、精神科１ヶ月、２年目に救急科３ヶ月、地域１ヶ月を必修とし、２年目の選択科目では、当センターだけでなく兵庫県立病院群の対象科でも研修を受けることができます。

1年次	6ヶ月	3ヶ月	1ヶ月	1ヶ月	1ヶ月
	内科	外科	小児科	産婦人科	精神科

2年次	3ヶ月	1ヶ月	8ヶ月
	救急科	地域医療	選択科目

※ 内科は１ヶ月分の外来研修と並行

研修内容全般

◇ 研修医は主治医とならず、副主治医として入院患者の診療にあたります。

◇ 当直（病棟、救急当直を兼ねる）は月に平日２～３回、土日いずれか１回程度です。

募 集 定 員　　13 名

給与・処遇

勤務形態	会計年度任用職員フルタイム
勤務時間	８時 45 分～17 時 30 分（休憩：12 時～13 時） 38 時間 45 分／週（７時間 45 分／日）
給　　与	１年次：284,500 円／月 ２年次：298,700 円／月
手　　当	通勤手当、超過勤務手当、期末手当 宿日直手当　21,000 円／回（５時間未満の場合は 10,500 円／回）
医師賠償 責任保険	病院において加入
宿　　舎	あり（一部自己負担あり、月 8,000～20,000 円程度）
駐 車 場	職員駐車場あり（自己負担あり、年1,200円）
社会保険	厚生年金保険、地方職員共済組合(短期)、雇用保険、労災保険　加入
学会補助	旅費のみ支給
当　　直	１～６回／月（診療科により変動）
休 日 等	休　　日：土日祝、年末年始（12/29～1/3） 年次休暇：１年次･･･10日、２年次･･･11日（繰り越しあり） 夏季休暇：５日／年

研修医の出身大学（過去５年）

令和２年度：神戸大学、徳島大学、岡山大学、島根大学、鹿児島大学、琉球大学、
名古屋市立大学、兵庫医科大学、昭和大学

令和３年度：神戸大学、香川大学、徳島大学、金沢大学、鳥取大学、山口大学、佐賀大学、
大分大学、愛知医科大学、近畿大学

令和４年度：神戸大学、徳島大学、大分大学、琉球大学、滋賀医科大学、自治医科大学、
名古屋市立大学、大阪医科薬科大学、兵庫医科大学

令和５年度：高知大学、徳島大学、神戸大学、金沢大学、香川大学、山口大学、
北海道大学、兵庫医科大学、鳥取大学、大阪医科薬科大学、琉球大学

令和６年度：香川大学、国際医療福祉大学、長崎大学、福井大学、弘前大学、琉球大学、
神戸大学、自治医科大学、鳥取大学、大分大学、産業医科大学

研修終了後の研修医の主な進路

13 名の初期研修医の内、そのまま当院で後期研修医として継続勤務となっているのは、2022 年度は 10 名、2023 年度は６名、2024 年度は５名でした。

また、当院の基幹プログラムの参加者は、2022 年度は９名、2023 年度は３名、2024 年度は４名でした。

2021 年度より外科も基幹型施設となっています。

必　　修　　科

＜内科６ヶ月＞

循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、脳神経内科の各分野に専門学会の認定医・専門医・指導医と認められた主任医長がおり、多分野における臨床経験が可能です。

初期研修医には、内科学会や循環器学会などの地方会にも演題発表を積極的にしてもらっています。内科専門医を目指すものには専門医資格を取得出来るように全領域の症例や剖検症例を受け持ってもらうようにしています。

＜外科３ヶ月＞

消化器一般・呼吸器そして心臓血管と当科の守備領域は広く、さらに救急症例も多く、外科における基本的症例・手技の経験・習得はもちろんのこと、日本外科学会専門医資格を取得する際に経験すべき手術・手技はほぼ当外科での研修のみで取得可能です。

当院は淡路島の中核病院で、かつ淡路全島の救急を一手に担っているため、外科医として経験すべき症例あるいは手術症例も極めて豊富で、外科医を志すものにとっては格好の研修施設であると自信を持ってお薦めできます。

＜小児科１ヶ月＞

当院は淡路島内で小児が入院できる唯一の病院であり、いろいろな患者さんが来院され多種多様な疾患が経験できます。また、地域周産期母子医療センターであり、新生児疾患も十分に経験することができます。

一般外来、一般小児病棟、新生児病棟に加えて、救急外来があり、小児科として充実した研修ができます。特に小児のプライマリ・ケアを学びたいと考える人にはふさわしい研修施設といえます。

＜産婦人科１ヶ月＞

指導医の指導のもとで、外来、病棟処置ならびに、分娩介助、手術などが学べます。また、産婦人科当直にて、婦人科救急・産科救急の実際を習得できます。

産科領域では、正常妊娠分娩、異常妊娠分娩の診断・管理について学べます。また、婦人科領域では良性及び悪性疾患の診断と管理を習得していただきます。

＜精神科１ヶ月＞

臨床医として精神科プライマリ・ケアの素養を身に付けることを第一の研修目標とします。このため、精神医学の診断学や治療学の基礎知識の習得とともに、一般科において遭遇する頻度の高い精神疾患および症状に対する基本的な診療技術を身に付けることを優先的に研修していただきます。

＜救急科３ヶ月＞

２年次の３ヶ月間、３～４名で研修していただきます。上級医と相談しながら、初期診療にあたり入院加療が必要な際は専門科にコンサルテーションをします。

症例は、１次～３次まで内科系・外科系ほか多くの症例を経験できます。日々忙しいですが充実した研修が受けられます。

＜地域医療１ヶ月＞

洲本市・南あわじ市の有床診療所のほか、地域で特色のある数箇所の診療所及び 200 床未満の病院の中から選択（各１週間）の形で、合計１ヶ月の地域医療研修を行います。

＜選択科目８ヶ月＞

２年次には、兵庫県立病院群（尼崎総合医療センター、西宮病院、加古川医療センター、はりま姫路総合医療センター、丹波医療センター、淡路医療センター、ひょうごこころの医療センター、こども病院、がんセンター、災害医療センター、粒子線医療センター、神戸陽子線センター、リハビリテーション中央病院、リハビリテーション西播磨病院）の対象科において、１～８ヶ月の範囲で選択可能です。

また、姉妹病院である鹿児島県立大島病院での１ヶ月研修も可能としています。

＜その他研修環境＞

各種器材を導入した実践的なスキルアップセンターを研修のために用意したほか、研修会として救急集中治療カンファレンスを随時、研修医による研修医のための屋根瓦方式による勉強会（通称：Bridge）を月２回オフィシャルな形で行っており、勉強会に加え研修医の交流の場としています。この他にも薬剤カンファレンス、医療安全講習会、緩和ケア講習会など教育研修にも益々力を入れる体制を作っています。

循 環 器 内 科

1　指導医師

参　　事　　奥田　正則（総合内科専門医、循環器専門医）

部　　長　　轟　　貴史（総合内科専門医、呼吸器専門医、循環器専門医、感染症専門医）

医　　長　　黒田　浩史（循環器専門医）

2　施設認定

日本専門医機構内科専門研修プログラム基幹施設

日本循環器学会循環器専門医研修施設

日本心血管インターベンション治療学会研修施設

日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設

日本内科学会認定医一般教育病院

3　概要・特徴

当院は循環器病学の研鑽をつむには絶好の条件を備えています。高齢化の進む日本の中でも淡路島の高齢化率はとりわけ高く、虚血性心疾患、心房細動、心臓弁膜症など、高齢化と共に増加する循環器疾患は非常に多くなっています。様々な心疾患が進行した結果生じる心不全入院もこの 10 年で倍増しており、循環器内科の入院患者はおよそ 13 万人の淡路島の人口規模を考えると明らかに多いと言えます。当院以外に循環器内科の常勤医のいる病院はありませんので、島内の心臓救急は全て当院のみで対応し、心臓血管外科と連携をとることにより、あらゆる心疾患の診断と治療が島内で完結できます。

4　研修内容

(1)　主治医団の１人として屋根瓦方式で病棟業務を担当し、各循環器疾患における診断及び治療の基本を学ぶ。

(2)　急性心筋梗塞や心不全に関しては、リハビリテーションや食事指導などの日常生活における管理についても学ぶ。

(3)　救急外来で、多数の循環器救急を経験する。

(4)　指導医の下で、心エコー検査、肺エコー検査の基本を学ぶ。

(5)　心臓カテーテル検査・治療に参加し、手技の基本を学ぶ。また、指導医の指導の下で、

血管穿刺やカテ台操作などの基本的な手技を行う。

(6)　ペースメーカー植え込み術に参加し、手術の基本を学ぶ。

(7)　IABP、PCPS の挿入に立ち会い、その管理について学ぶ。

(8)　受け持ち患者の心臓外科手術には積極的に参加する。

5　カテーテル・ペースメーカー関連の年間実績（2022 年）

急性心筋梗塞：62 例

CAG：957 例（待期例 625 例、緊急例 332 例）

冠動脈インターベンション：247 例

ペースメーカー植え込み（新規植え込み術と電池交換術の合計）：101 例

CRT：14 例

ICD：2 例

EVT：175 例

シャント EVT：108 例

カテーテルアブレーション：202 例

BAV：18 例

6　週間スケジュール

月曜日	8:30～	循環器内科カンファレンス（多職種カンファ）
	17:00～	透析カンファレンス（透析症例に限定したカンファ）
	18:00～	内科医局会（内科全体の合同会議）
火曜日	8:30～	循環器内科カンファレンス（多職種カンファ）
水曜日	8:30～	循環器内科カンファレンス（多職種カンファ）
	11:30～	研修医カンファレンス(1 週間の担当入院患者に関するミニカンファ)
	13:30～	心不全カンファレンス（心不全入院患者に限定した多職種カンファ）
	17:00～	CVC（心臓血管外科、形成外科、放射線科合同の合同カンファ）
木曜日	8:30～	循環器内科カンファレンス（多職種カンファ）
金曜日	8:30～	循環器内科カンファレンス（多職種カンファ）

呼 吸 器 内 科

1　指導医師

部長（科長）　　小谷　義一（日本内科学会指導医、気管支鏡専門医・指導医、
呼吸器専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会指導医）

2　施設認定

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設

3　概要・特徴

兵庫県立淡路医療センター初期臨床研修システムの趣旨に従い、呼吸器内科診療を通して初期研修制度で期待される内科医師としての呼吸器疾患の診断能力向上、肺癌、気管支喘息や肺結核を含めた感染症など幅広い治療方法の習得を目指す。

4　研修内容

(1)　研修医は病棟業務を担当する。連日指導医と担当患者についてディスカッションを行い治療方針決定、特に肺癌の化学療法時の全身管理について徹底した指導を行う。

(2)　病棟業務は指導医とともに５～10 床程度の入院患者を受け持つ。

(3)　希望者は指導医とともに呼吸器内科外来業務の見学も可能である。

(4)　胸部レントゲン写真、CT、MRI 読影、気管支鏡検査、肺機能検査など検査の評価が十分できるよう研修を行う。

(5)　肺癌診療、間質性肺炎、呼吸不全、閉塞性肺疾患、感染症、睡眠時無呼吸症候群などに関する研修を行う。

(6)　気管支鏡検査での観察や手技を研修医の力量に応じて指導医と共に行うことが可能である。

(7)　呼吸器外科・放射線科との密接な関係を有しており、相互研修を行う。また、肺癌治療において、緩和チームと連携し緩和治療を行う。

(8)　カンファレンス、研究会、学会などに積極的に参加する。

5　週間スケジュール

月曜日	午前	
	午後	気管支鏡検査
火曜日	午前	結核病棟回診
	午後	呼吸器カンファレンス（呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科、病理診断科）
水曜日	午前	
	午後	
木曜日	午前	
	午後	気管支鏡検査
金曜日	午前	
	午後	病棟回診、症例検討

消 化 器 内 科

1　指導医師

部長（科長）　　西　　勝久（総合内科専門医、肝臓専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医・指導医）

2　施設認定

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会認定施設

3　概要・特徴

消化器内科では、消化管、肝胆膵疾患を豊富に経験できます。また、消化管の拡大内視鏡による精査や ESD なども島内で完結しています。

当院は兵庫県の肝疾患専門施設に認定されており、ウイルス性肝炎の治療、肝生検による精査や肝癌は外科、放射線科とディスカッションして治療にあたっています。

更に当院は国の定める癌診療拠点病院です。消化器領域の癌の治療は化学療法も含め経験できます。

4　研修内容

(1)　研修医は病棟業務を担当する。

(2)　病棟業務は、指導医とともに 5 ～10 床程度の入院患者を受け持つ。

(3)　希望者は指導医とともに消化器内科外来業務の見学も可能である。

(4)　腹部超音波検査、スクリーニングの上部消化管内視鏡検査は指導医と共に行いその都度検討を行って臨床診断に至る。

(5)　その他上記検査にできる限り立ち会う。受け持ち患者の検査は研修医の力量に応じ助手等を務める。

(6)　研究会、学会、カンファレンス等に積極的に参加する。

5　主要な疾患・手技（年間）

上部消化管内視鏡	約 3,700 件
内視鏡的止血術	76 件
内視鏡的粘膜切除術	68 件
内視鏡的静脈瘤結紮術	15 件
内視鏡的硬化療法	17 件
経費内視鏡的胃瘻造設術	25 件
下部消化管内視鏡	約 1,500 件
内視鏡的逆行性膵胆管造影	269 件
内視鏡的乳頭括約筋切開術	78 件
内視鏡的胆管ステント留置術	17 件
経皮胆道内視鏡	33 件
腹部超音波内視鏡	約 3,000 件
経皮経肝胆道ドレナージ術	約 40 件
経皮経肝胆嚢ドレナージ術	約 40 件
経皮経肝胆管ステント留置術	約 20 件
経皮肝生検術	約 50 件
経皮的エタノール注入療法	3 件
経皮的ラジオ波焼灼療法	30 件

※ 内視鏡検査数は、外科との合計

6　週間スケジュール

月曜日	8:15～ 9:15	外科手術症例報告、手術予定症例検討会
	9:30～12:00	腹部超音波検査
	13:00～00:00	病棟回診及び適宜 腹部超音波検査
	18:00～19:00	内科医局会
火曜日	9:00～ 9:30	回診
	9:30～12:00	腹部超音波検査
	13:00～15:00	下部消化管内視鏡
	15:00～00:00	病棟回診及び適宜 腹部超音波検査
	18:00～20:00	消化器内科カンファレンス
水曜日	9:00～ 9:30	回診
	9:30～12:00	上部消化管内視鏡
	13:00～00:00	病棟回診及び適宜 腹部超音波検査
木曜日	9:00～ 9:30	回診
	9:30～12:00	上部消化管内視鏡
	13:00～15:00	下部消化管内視鏡
	15:00～00:00	病棟回診及び適宜 腹部超音波検査
金曜日	9:00～00:00	病棟回診及び適宜 腹部超音波検査

血　液　内　科

1　指導医師

部長（科長）　　野村　哲彦（総合内科専門医、血液専門医、ICD）

2　施設認定

エイズ治療拠点病院

日本血液学会専門研修教育施設

3　概要・特徴

(1)　概要

初期臨床研修システムの趣旨に従い、血液・免疫内科診療を通して初期研修制度で期待される内科医師としての血液、免疫疾患の診断能力向上、造血幹細胞移植を含めた幅広い治療方法の習得を目指す。

(2)　設備

クリーンルーム（３床）

血液幹細胞分離装置（Fresenius AS-104）

簡易無菌層流装置（HEPA フィルター）（１床）

造血幹細胞採取室（超低温槽　-135℃、-80℃）

4　研修内容

研修医は指導医とともに血液・免疫疾患の入院患者を受け持つ。連日指導医と担当患者についてディスカッションを行い治療方針決定、特に化学療法字の患者全身管理については徹底した指導を行う。侵襲的手技は指導医とともに行い、骨髄塗抹標本は指導医と共に検鏡し、鑑別から診断確定までの一連の過程を指導医と行うことで臨床能力の向上に努める。研究会、学会は積極的に参加し、発表する。

5　主要な疾患・手技（年間）

外来患者数　250 例（血液疾患 150 例、免疫疾患 100 例）

血液悪性疾患初診患者　10～20 例

造血幹細胞移植術件数　２例（自己末梢血幹細胞移植）

6　週間スケジュール

月曜日	午前	
	午後	
火曜日	午前	
	午後	
水曜日	午前	
	午後	膠原病専門外来
木曜日	午前	
	午後	
金曜日	午前	血液専門外来
	午後	病棟回診、症例検討

腎臓・透析内科

1　指導医師

部　　長　　野村　哲彦（総合内科専門医、血液専門医、ICD）

2　施設認定

日本血液学会専門研修教育施設

3　概要・特徴

腎臓内科・透析室は内科の一部として機能しており、他分野の内科とも風通しがいい連携がとれており、バランスがよく総合的な研修が受けられる。透析室は、日曜日以外は業務を行っている。希望者は指導医のもと、透析業務の研修も受けることが可能である。

また、当院は１次から３次までをこなす救急外来を有し、救急疾患についても豊富に経験できる。研修を行うには非常に適切な施設であり、熱意のある研修医を満足させるものと信じる。

4　研修内容

(1)　主に病棟業務を担当し、腎疾患における診断治療・急性血液浄化療法における治療について学ぶ。

(2)　腎不全末期・維持透析患者の食事指導や日常化活における管理について学ぶ。

(3)　当院の特性として、救急医療を経験することが多い。

(4)　受け持ち患者のシャント作成手術の介助などは指導医のもとに行うことができる。

(5)　学会、研究会に症例報告を行うことができる。

5　主要な疾患・手技（年間）

(1)　主な疾患

急性腎不全	約 50 例
慢性腎不全	約 250 例（他疾患合併者も含む）
血液透析導入	約 50 例
腹膜透析導入	約 10 例
緊急血液浄化	約 75 例
慢性糸球体腎炎	約 25 例（ネフローゼ症候群も含む）

(2)　主な検査や手術

腎生検	約 20 例
シャント造影	約 50 例
PTA	約 40 例
内シャント手術	約 60 例

脳 神 経 内 科

1　指導医師

部長（科長）　　宮﨑　由道（神経内科専門医・指導医、老年病専門医・指導医、日本臨床神経生理学会指導医）

医　　長　　垂髪　祐樹（総合内科専門医、神経内科専門医、脳卒中専門医）

2　施設認定

日本神経学会準教育施設

日本臨床神経生理学会準教育施設（筋電図・神経伝導分野）

日本老年医学会認定施設

日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター

3　概要・特徴

初期臨床研修システムの趣旨に従い、脳神経内科診療を通して初期研修制度で期待される内科医師としての神経疾患の診断能力向上、神経所見の診察、脳梗塞、てんかん、髄膜炎、末梢神経障害、神経変性疾患などの幅広い治療方法の習得を目指す。

4　研修内容

(1)　研修医は病棟業務を担当する。

(2)　病棟業務は、指導医とともに脳梗塞患者を中心に５～10 症例程度受け持つ。

(3)　希望者は指導医とともに脳神経内科外来・ものわすれ外来業務の見学も可能である。

(4)　髄液検査、神経伝導検査、筋電図は指導医と共に行いその都度検討を行って臨床診断に至る。

(5)　指導医と共に神経所見の診察を行いながら習得する。

(6)　研究会、学会、カンファレンス等に積極的に参加する

5　主要な疾患・手技（年間）

(1)　主な疾患

脳梗塞	約 140 例
てんかん	約 20 例
神経感染症	約 10 例
神経免疫疾患	約 10 例
神経変性疾患	約 20 例

(2)　主な検査や手術

神経伝導検査　筋電図	約 250 例
腰椎穿刺	約 50 例
脳波検査	約 100 例

6　週間スケジュール

月曜日	午前	病棟業務
	午後	病棟業務
火曜日	午前	神経伝導検査　筋電図
	午後	病棟業務
水曜日	午前	外来見学　希望者のみ
	午後	病棟業務
木曜日	午前	神経伝導検査　筋電図
	午後	病棟業務
金曜日	午前	病棟業務
	午後	病棟業務

外科・消化器外科

1 指導医師

院　　長　　鈴木　康之（消化器病専門医・指導医、外科専門医・指導医、
消化器外科専門医・指導医、腹部救急認定医・教育医　ほか）

部長（科長）　宮本　勝文（外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医）

部　　長　　大石　達郎（消化器内視鏡専門医・指導医、外科専門医・指導医、
消化器外科専門医・指導医、腹部救急認定医・教育医　ほか）

部　　長　　高橋　晃　（外科専門医、救急科専門医）

部　　長　　高橋　応典（肝臓専門医、外科専門医）

部　　長　　沢　秀博　（外科専門医・指導医、消化器病専門医、消化器外科専門医・指導医）

2　施設認定

淡路・播磨地域外科専門医研修プログラム基幹施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会認定施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本腹部救急医学会腹部救急認定医教育医制度認定施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本外傷学会外傷専門医研修施設

3　概要・特徴

外科は消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科に別れ臓器別に診療を行っていますが、各々の診療科長は神戸大学の同門であり、横の連携を密にした臓器横断的な外科診療を得意としています。

例年、消化器外科で 750 例の手術を行っていますが、そのうち約 3 分の 1 は緊急手術となっています。

当院を基幹とする淡路・播磨地域外科専門医プログラムでは、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、宍粟総合病院、神戸大学附属病院と連携して『幅広く総合的な外科医療を実践できる専門医の養成』を特徴とするプログラムを作成しています。

4　研修内容

(1)　手術患者の術前診断から術後管理までを一貫して行うことで、診断から治療にいたるまでの過程を学び、外科的な考え方を実践・収得する。

(2)　IVH カテーテル挿入、胸腔ドレナージ術、各種ドレナージ術など、外科患者管理に最低限必要な技術を収得する。

(3)　定期的に縫合･結紮のドライラボ実習、実地に指導医の監督下にこれらの実践を行い、収得する。

5　主要な疾患・手技（年間）

1	消化管および腹部内臓	約 750 例
2	乳腺	約 10 例
3	呼吸器	約 80 例
4	心臓・大血管	約 100 例
5	末梢血管（頭蓋内血管を除く）	約 200 例
6	頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）	約 230 例
7	小児外科	約 10 例
8	上記１～７の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）	約 250 例
9	外科領域（上記１～７）　合計	1,388 例

6　週間スケジュール

月曜日	8:15～	消化器疾患術前カンファレンス
	9:00～	病棟回診・外来
	9:30～	手術
火曜日	8:20～	重症・術後症例カンファレンス
	9:00～	病棟回診・外来
水曜日	8:20～	内視鏡手術カンファレンス
	9:00～	病棟回診・外来
	9:30～	手術
木曜日	9:00～	病棟回診・外来
	9:30～	手術
金曜日	8:20～	消化器疾患カンファレンス（消化器内科・外科、放射線科、病理診断科）
	9:00～	病棟回診・外来
	13:30～	手術
	17:00～	外科合同カンファレンス（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科）

呼 吸 器 外 科

1　指導医師

副院長（科長）　　松岡　英仁（気管支鏡専門医・指導医、外科専門医・指導医、呼吸器外科専門医・修練責任者）

2　施設認定

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設

3　概要・特徴

呼吸器外科に係る病態、管理を理解し、指導医の下で開胸、閉胸手技を取得する。

4　研修内容

(1)　診断能力

呼吸器疾患に関する症状と理学的所見、画像診断(X 線,CT,MRI,超音波検査など)で、肺癌、炎症、結核などの診断をつける。

(2)　検査

悪性が疑われる時は、気管支鏡や胸腔鏡検査を行う技術を身につける。

(3)　手術

手術適応が正しいかどうか判断できるようにする。

術前に生理学的検査（心電図、呼吸機能検査、動脈血ガス分析など）を行い、手術方法により手術後の残存肺機能を予想して、どのような手術を選択するか判断できるようにする。

手術は開閉胸できるようになる。

5　主要な疾患・手技（年間）

肺癌	50 例
自然気胸	10 例
転移性肺腫瘍	6 例
炎症性疾患	1 例
縦隔腫瘍	2 例
急性膿胸	1 例
その他	7 例
胸腔ドレナージ	約 100 例（自然気胸、外傷性血気胸、癌性胸膜炎）

6　週間スケジュール

月曜日		
第 3 火曜日	16:30～	呼吸器カンファレンス（呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科、病理診断科）
水曜日		
木曜日		
金曜日		

心 臓 血 管 外 科

1　指導医師

副 院 長　　杉本　貴樹（外科専門医・指導医、心臓血管外科専門医・修練指導者、循環器専門医、脈管専門医　ほか）

部長（科長）　　井上　武　（外科専門医、心臓血管外科専門医）

2　施設認定

日本外科学会外科専門医制度修練施設

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設

日本循環器学会循環器専門医研修施設

日本脈管学会研修指定施設

下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設

腹部ステントグラフト実施施設

胸部ステントグラフト実施施設

3　概要・特徴

心臓血管外科の診療・手術を通して心臓外科や血管外科分野の基本的知識や基本的外科手技の習得を目的とします。比較的高度な専門分野ではありますが弁膜症に対する弁形成術／弁置換術、大動脈瘤に対する人工血管置換術など病態に対する手術内容は理解しやすく手術がスピーディーに進行していくことが特徴です。

また当院では淡路島内の全患者を治療するため、大動脈解離などの緊急手術を含め成人心臓血管外科で扱うほぼ全領域の手術を経験することが出来ます。

当院は例年外科領域を目指す研修医が多い中で、近年は心臓血管外科を専攻していく研修医が毎年出ています。指導医はもとより年齢の近い先輩にも指導を受けながら研修できることも特徴と言えます。

4　研修内容

(1)　心臓血管外科指導医と共に 10-15 人程度の入院患者を受け持ち、術前診断から手術・術後管理までを一貫して行うことで、診断から治療にいたるまでの過程を学び、心臓血管外科の考え方を実践・収得する。

(2)　中心静脈カテーテル挿入、胸腔ドレナージ術など、外科患者管理に最低限必要な技術

を収得する。

(3)　手術に参加し心臓や大動脈に触れることで生きた人体の循環器系臓器の特色を理解し臓器機能の理解を深める。また、研修医の力量に応じて助手を務めたり結紮・皮膚縫合を実践、収得する。

(4)　カンファレンスに参加することで手術対応や術式の理解を深める。

5　主要な疾患・手技（年間）

心臓手術（冠動脈バイパス術、弁置換・形成術など）	70 例
大動脈手術（人工血管置換術、ステントグラフトなど）	70 例
末梢動脈手術（動脈バイパス術など）	50 例
静脈手術（静脈瘤手術、静脈形成術など）	70 例
透析内シャント手術	60 例

6　週間スケジュール

月曜日	9:00～ 9:30	大動脈カンファレンス（放射線科と、随時）
	午後	手術（血管／ステントグラフトなど）
火曜日	終日	手術（心臓・大血管）
水曜日	午前	手術（透析内シャント／下肢静脈瘤など）
	17:00～18:00	循環器合同カンファレンス（循環器内科、放射線科・形成外科と）
木曜日	終日	手術（心臓・大血管）
金曜日	終日	手術（透析内シャント／下肢静脈瘤など）
	16:00～17:00	心臓血管外科チームカンファレンス（看護師・臨床工学技士と）
随　時		縫合練習、抄読会

脳 神 経 外 科

1　指導医師

部長（科長）　　阪上　義雄（脳神経外科専門医、内分泌代謝科（脳神経外科）専門医、脳卒中専門医、頭痛専門医・指導医、認知症専門医）

2　施設認定

日本脳神経外科学会連携施設

日本脳卒中学会研修教育施設

日本認知症学会教育施設

日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター

3　概要・特徴

脳神経外科領域の疾患における診断・治療・検査・手技などの脳神経外科診療において必要な研修を行い、研修医師の育成を目指す。

4　研修内容

(1)　研修医は主に病棟業務を担当する。救急外来においては指導医のもとに初診患者の診療を行う。

(2)　病棟業務は、指導医とともに力量に応じて 15～30 床程度の入院患者を受け持つ。

(3)　脳血管撮影は指導医とともに行い、臨床診断・治療方針。手術法の検討を行う。

(4)　手術は原則としてすべて立ち会い、指導医のもとに力量に応じて助手或いは執刀医を勤める。

(5)　研究会・学会・カンフアレンスには積極的に参加する。

5　主要な疾患・手技（年間）

手術件数　170 例（過去５年平均）

脳動脈瘤・AVM 手術	20 例
脳・脊髄腫瘍摘出術	15 例
頭部外傷手術	20 例
水頭症手術	20 例
脳血管撮影件数	150 例
血管内手術（脳動脈瘤・AVM・脳腫瘍塞栓術、血栓回収術）	60 例
脳内出血手術（開頭術・内視鏡的血腫除去術）	20 例

6　週間スケジュール

月曜日	8:30～10:00	病棟回診・病棟業務
	10:00～16:00	脳血管内手術・脳血管撮影検査
	16:00～17:30	病棟業務
火曜日	8:30～17:30	病棟回診・病棟業務
水曜日	8:30～12:00	病棟回診・病棟業務
	13:00～16:00	病棟処置・病棟業務
	16:00～17:30	カンファレンス
木曜日	8:30～10:00	病棟回診・病棟業務
	10:00～16:00	脳血管内手術・脳血管撮影検査
	16:00～17:30	病棟処置・病棟業務
金曜日	8:30～ 9:30	病棟回診
	9:30～16:30	手術
	16:30～17:30	病棟業務

整　形　外　科

1　指導医師

副院長（科長）　　澤村　悟　（脊椎脊髄病医、整形外科専門医、脊椎脊髄外科専門医・指導医）

部　　長　　櫻井　敦志（整形外科専門医、リウマチ専門医、外傷専門医）

2　施設認定

日本整形外科学会研修施設

3　概要・特徴

本院は、淡路島で唯一の 3 次救急病院であり、超高齢化社会でもあることから、整形外科では必然的に外傷や高齢者の骨折の割合が多くなっています。また、淡路島で唯一の総合病院でもあることより、脊椎・関節などの慢性疾患の手術も多く手がけています。救急医療も含めて、整形外科のあらゆる疾患が豊富に経験、研修できると思います。

4　研修内容

主として救急医療を含めて、骨折、神経・血管・筋腱損傷などの外傷を中心に、検査、診断、治療の流れを修得する。骨関節・脊椎の慢性疾患について、検査、診断、治療の流れを理解・修得する。

5　主要な疾患・手技（年間）

年間手術件数	1,000 件
外傷	600 件
脊維	120 件
関節	60 件（うち人工関節 40 件）
手の外科	40 件

6　週間スケジュール

月曜日	8:00～	症例カンファレンス
	終日	手術（３～４例）、外来３診（初診１、再診２）
火曜日	終日	手術（４～５例）、外来２診（初診１、再診１）
水曜日	終日	手術（４～５例）、外来２診（初診１、再診１）
木曜日	8:00～	症例カンファレンス
	終日	手術（３～４例）、外来３診（初診１、再診２）
金曜日	終日	手術（３～４例）、外来２診（初診１、再診１）

形　成　外　科

1　指導医師

医長（科長）　　村井　信幸（形成外科専門医・領域指導医、創傷外科専門医　ほか）

2　施設認定

日本形成外科学会認定施設

日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

インプラント実施施設（一次二期再建・二次再建）

エキスパンダー実施施設認定（二次再建）

3　概要・特徴

研修を通して、以下の事項を習得することを目標とする。

(1)　形成外科的診察法、記載法

(2)　形成外科的縫合法を含む外科的基本手技や解剖学的知識

(3)　手術前後の全身管理の方法

(4)　包帯法･ガーゼドレッシング法、創傷治癒と外用剤･創傷被覆材の基礎知識

4　研修内容

(1)　研修医は主に病棟業務を担当し、入院患者の病棟処置を行う。救急外来などで縫合処置を必要とする患者が来院した場合は、指導医とともに診察を行い、症例に応じて、実際に縫合処置を行う。

(2)　希望者は、外来の見学や、初診患者のアナムネーゼの聴取、外来中の処置を実際に行うことも可能である。

(3)　予定・緊急に関わらず、可能な限り多くの手術に、助手として参加する。

5　主要な疾患・手技

	区分	症例数
(1)	外傷（熱傷、顔面・体幹・四肢、外傷後の組織欠損）	197
(2)	先天異常（唇裂・口蓋裂含む）	6
(3)	腫瘍（良性/悪性、腫瘍の続発症、腫瘍切除後の組織欠損）	254
(4)	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	17
(5)	難治性潰瘍（褥瘡・その他の潰瘍）	90
(6)	炎症・変性疾患	49
(7)	美容（手術・処置）	0
(8)	その他	108
(9)	レーザー治療	91
	合計	**812**

6　週間スケジュール

月曜日	午前	外来、病棟業務
	午後	外来、局麻手術（第 2・4 週）
火曜日	午前	外来、病棟業務
	午後	抄読会、全麻手術（第 2・4 週）
水曜日	午前	外来、病棟業務
	午後	外来、病棟カンファレンス、症例検討会、CVC カンファレンス
木曜日	午前	外来、病棟業務
	午後	局麻手術
金曜日	終日	全麻手術

（参考：1日のスケジュール）

[朝]　08:45　始業、朝回診

[外来]　午前　09:00～12:00、午後　13:00～14:00

[手術]　午前　09:30～、午後　13:00～

[病棟カンファレンス]　水曜日　13:00

[形成カンファレンス]　水曜日　15:00

[CVC]　水曜日　17:00

[夕]　17:00　夕回診

17:30　終業

精　　神　　科

1　指導医師

部長（科長）　　俵　　崇記（精神保健指定医、精神科専門医・指導医）

2　施設認定

日本精神神経学会研修施設

3　概要・特徴

(1)　概要

臨床医として精神科プライマリ・ケアの素養を身に付けることを第一の研修目標とする。このため、精神医学の診断学や治療学の基礎知識の習得とともに、一般科において遭遇する頻度の高い精神疾患および症状に対する基本的な診療技術を身に付けることを優先的に研修する。

(2)　精神科病棟

閉鎖病棟　45 床（隔離室４床）

(3)　精神科外来

年間延外来患者数	10,135 人（平均 41.9 人／日）
年間延入院患者数	7,608 人（平均 20.8 人／日）
平均在院日数	74.6 日
外来新規患者数	376 人（平均 1.6 人／日）
もの忘れ外来（専門外来）	2 回／週

4　研修内容

(1)　心得として

①　患者―医師関係を深い配慮の下で構築する。患者・家族を包括的に理解し良好な治療的人間関係を築くための、ニーズの把握・インフォームドコンセントの実施・プライバシーへの配慮。

②　チーム医療の重要性を理解し、構成員として医療・保健,福祉など幅広い職種からなるメンバーと有機的に協調する。

(2)　知識として

①　統合失調症・うつ病などの主たる精神疾患の診断・治療に PAl する知識

②　不定愁訴（神経症）・睡眠障害。せん妄など一般科においても頻緊に出会う症状についての診断・治療に関する知識

③　診断学的知識（精神症状の客観的評価、心理検査・脳波検査による補助診断技術）

④　治療学的知識（各種精神療法・薬物療法・mECT など）

⑤　精神保健福祉法に関する知識

(3)　技術として

①　精神科面接技法の習得（コミュニケーシヨン投法・診断技法・精神療法など）

②　精神および身体的現症の包括的把握能力の習得（脳器質性および症候性疾患に基づく症状および所見を把握する能力）

③　治療実施能力の育成（精神療法・薬物療法・社会復帰支援など）

5　主要な疾患・手技（年間）

疾患分類（新患）

神経症：30%、感情障：25%、統合失調症：30%、認知性疾患：10%、その他：５%

6　週間スケジュール

月曜日	9:00～	病棟診察（研修期間中に入院した患者を主治医として担当）
	13:30～	病棟カンファレンス
	17:30～	症例検討会
火曜日	9:00～	病棟診察
水曜日	9:00～	病棟診察
		新患診察（陪診）
木曜日	9:00～	病棟診察
		新患診察（陪診）
金曜日	9:00～	病棟診察
随　時		リエゾン（他科往診）について回る 治療学等についてレクチャーを行う

小　　児　　科

1　指導医師

医長（科長）　　西畑　昌大（小児科専門医、小児循環器専門医）

2　施設認定

日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）暫定認定施設

3　概要・特徴

小児科では、一般的な外来・入院診療に加え、開業医からの紹介患者の受け入れ、小児の各専門領域の外来診療、正常新生児を中心とした新生児診療、乳幼児の健診、救急対応などを行っています。研修では地域病院ならではの経験を積むことができます。

4　研修内容

(1)　小児に対する欠陥確保と採血、点滴のやり方と小児の水分および電解質投与方法

(2)　救急外来における小児救急疾患に対する対処の仕方

(3)　外来での急性疾患の見方、特に入院の必要性の判断の仕方

(4)　外来での特性疾患（神経系、アレルギー、心疾患など）の診かたとフォローの仕方

(5)　一般般病棟での主な急性疾患の治療。細菌性およびウイルス性肺炎、髄膜炎、脳炎、喘息、乳児下痢症、けいれん、細気管支炎、尿路感染症など

(6)　正常新生児の保育の仕方、ミルクの投与法

(7)　成熟新生児および早産児の診察の仕方、それらの主要疾患の診断と治療

5　主要な疾患・手技（年間）

小児科入院（2021.1～2021.12）

呼吸器系感染症	
気管支炎	17 人
咽頭炎	7 人
肺炎	4 人
グループ症候群	6 人

痙攣	
熱性痙攣	25 人
痙攣	5 人
痙攣重積	6 人
てんかん	5 人

流行性ウイルス感染症	
RSウイルス感染症	36 人
アデノウイルス	1 人
ウイルス感染症	2 人
突発性発疹	4 人

腸管感染症	
急性腸炎	14 人

尿路感染症	13 人

1型糖尿病	1 人

その他					
川崎病	1 人	気管支喘息	8 人	食物アレルギー	21 人
低身長症	3 人	アナフィラキシー	5 人	発熱	8 人
哺乳不良	2 人	熱中症	1 人	脱水症	3 人
薬剤ｱﾚﾙｷﾞｰの疑い	2 人	新生児発熱	5 人	菊池病	2 人
嘔吐症	4 人	不全型川崎病	2 人		

中枢性思春期早発症の疑い、21水酸化酵素欠損症、手足口病、SGA低身長、胃食道逆流性、一過性意識障害、咽頭炎または細菌性腸炎、うつ熱、下肢脱力、感覚障害、肝機能障害、急性肝障害、菌血症、血液培養陽性、下痢症、高ナトリウム血症、呼吸不全、消化管出血、小児ネフローゼ症候群、腎機能障害、神経芽腫、新生児黄疸、新生児臍炎、体重増加不良、単純性股関節炎、虫垂炎疑い、低形成腎、低血糖、伝染性単核球症の疑い、突発性縦隔気腫、内斜視、熱性痙攣群発、脳振盪、脳脊髄液漏出症、肺炎球菌菌血症、蜂刺症、左水腎症、肥満症、腹痛症、不明熱、蜂窩織炎、慢性腹痛、右額部リンパ管腫、無呼吸発作の疑い、溶連菌感染症、臍炎・臍肉芽腫、潜在性二分脊椎症疑い　各１人

6　週間スケジュール

月曜日	8:45～	病棟・外来カンファレンス
火曜日	8:45～	病棟・外来カンファレンス
水曜日	8:45～	病棟・外来カンファレンス
木曜日	8:45～	病棟・外来カンファレンス
	17:00～	NICU・産科合同症例検討会
金曜日	8:45～	病棟・外来カンファレンス

皮　　膚　　科

1　指導医師

医長（科長）　　江﨑　諒

2　概要・特徴

淡路島全域より皮膚疾患の患者様が集まる環境であり、一般的な湿疹・皮膚炎、皮膚アレルギー、皮膚腫瘍はもちろん、特殊な皮膚感染症（深在性真菌症、日本紅斑熱、非結核性抗酸菌症など）や動物性皮膚疾患（マダニ咬傷、オコゼ刺傷など）を経験する機会も多い。多種多様な皮膚疾患を経験できる研修施設であると考えている。

3　研修内容

各種皮膚疾患に関する診療を経験し、プライマリ・ケアに必要な診療技術の習得を目指すとともに、皮膚科を志望する研修医に対しては、より専門的な技術の習得を目指す。

4　主要な疾患・手技（年間）

延外来患者数　　9,350 人（平均 38.6 人／日）

延入院患者数　　1,062 人（平均 2.9 人／日）

＜疾患別入院患者数＞

皮膚良性腫瘍	19 人
皮膚悪性腫瘍	19 人
細菌性・ウイルス性皮膚疾患	20 人
物理・化学的皮膚障害	14 人
アレルギー性皮膚疾患	5 人
その他	6 人

5　週間スケジュール

月曜日	午前	外来見学
	午後	外来小手術、検査、病棟回診・処置
火曜日	午前	外来見学
	午後	外来小手術、検査、病棟回診・処置
水曜日	午前	手術
	午後	外来小手術、検査、病棟回診・処置
木曜日	午前	外来見学
	午後	カンファレンス、褥瘡回診
金曜日	午前	外来見学
	午後	外来小手術、検査、病棟回診・処置

泌　尿　器　科

1　指導医師

部長（科長）　　吉行　一馬（泌尿器科専門医・指導医）

部　　長　　小泉　文人（泌尿器科専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医）

2　施設認定

日本泌尿器科学会専門医教育施設（拠点教育施設）

3　概要・特徴

初期臨床研修システムの趣旨に従い、泌尿器科診療を通して、初期研修制度が期待する医師の要件を満たす医師の養成を目指す。

(1)　病 床 数　　10 床

(2)　設備機器　　体外衝撃波結石破砕装置、機能検査装置、超音波診断装置、尿道内視鏡装置

4　研修内容

(1)　研修医は病棟業務と外来業務を担当する。

(2)　病棟業務は、指導医と共に約７床の入院患者を受け持つ。

(3)　外来業務は週３回で、指導医の下に受け持ち退院患者と初診患者計約 10 名程度の診療を行う。

(4)　レントゲン検査及び膀胱機能検査等は指導医と共に行い、その都度、検討を行って臨床診断に至る。

(5)　体外衝撃波結石破砕術も病棟業務の一貫として行い、指導医の下に受け持ち患者の破砕治療を担当する。

(6)　手術は出来得る限り立ち会う。受け持ち患者については、指導医の立ち会いの下に研修医の力量に応じて執刀医あるいは助手を務める。

(7)　研究会、学会、CC 及び CPC に積極的に参加する。

5　主要な疾患・手技（年間）

手術件数			
悪性腫瘍		良性腫瘍	
根治的腎摘	9 人	腎摘	2 人
腎部分切除	1 人	その他カルンケル切除	5 人
腎尿管全摘	3 人	その他	
膀胱全摘尿路変更		陰茎包皮環状切除	3 人
尿管皮膚ろう	5 人	精巣固定	6 人
新膀胱	1 人	単純精巣摘除	5 人
膀胱部分切除	2 人	陰のう水腫根治	2 人
前立腺全摘	15 人	勝脱憩室摘除	1 人
尿管部分切除新吻合	2 人	尿膜管摘除	1 人

6　週間スケジュール

月曜日	8:00～ 9:15	回診、病棟指示出し、病棟処置
	9:15～12:00	外来検尿、外来診察、外来処置、レントゲン検査、膀胱鏡
	14:00～17:00	逆行性腎盂造影、前立腺生検、膀胱機能検査
	17:00～00:00	回診、病棟処置、術前説明
火曜日	8:00～ 9:30	回診、病棟指示出し、病棟処置、カンファレンス
	9:30～12:00	手術
	13:00～14:00	外来診察、体外衝撃波、結石粉砕術
	17:00～00:00	回診、病棟処置、術前説明
水曜日	8:00～ 9:15	回診、病棟指示出し、病棟処置
	9:15～12:00	外来検尿、外来診察、外来処置、レントゲン検査、膀胱鏡
	14:00～17:00	逆行性腎盂造影、前立腺生検、自己血貯血
	17:00～00:00	回診、病棟処置、術後説明
木曜日	8:00～ 9:30	回診、病棟指示出し、病棟処置
	9:30～12:00	手術
	14:00～17:00	前立腺生検、小手術
	17:00～00:00	回診、病棟処置、術前説明、カンファレンス
金曜日	8:00～ 9:15	回診、病棟指示出し、病棟処置
	9:15～12:00	外来検尿、外来診察、外来処置、レントゲン検査、膀胱鏡
	13:30～14:00	体外衝撃波、結石粉砕術
	17:00～00:00	回診、病棟処置

産　婦　人　科

1　指導医師

部長（科長）　　西島　光浩（母体保護法指定医、産婦人科専門医・指導医）

2　施設認定

地域周産期母子医療センター

日本産科婦人科学会専攻医指導施設（連携型）

日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）指定施設

日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

3　概要・特徴

(1)　病 床 数　　産科母子センター20 床、NICU・GCU12 床、婦人科 6 床

(2)　設備機器　　超音波断層装置、胎児監視セントラルシステム、腹腔鏡機器、コルポスコピー、手術支援ロボット「ダウィンチ Si」

4　研修内容

(1)　指導医の指導のもと外来診療、病棟処置ならびに分娩・手術の介助について学ぶ。

(2)　産婦人科当直にて婦人科救急・産科救急分娩の実際に携わる。

(3)　正常妊娠・分娩の管理と婦人科良性疾患の診断と治療ならびに異常妊娠・分娩の管理と婦人科悪性疾患の診断と治療について学ぶ。

5　主要な疾患・手技（年間）

年間入院患者数

母子センター　　約 1,000 人

（正常分娩数 500～600、ハイリスク妊娠管理 100、帝王切開 120　ほか）

婦人科　　約 300 人

（開腹手術 70、腟式手術 20、子宮鏡・ロボット支援手術を含む内視鏡手術 80、放射線療法 10、化学療法 20　ほか）

6　週間スケジュール

月曜日	8:00～	症例検討会および病棟回診、術前診察、退院診察 術前処置・婦人科がん化学療法の実践、入院患者診察・IC
	午後	定期手術（帝王切開・婦人科手術）
火曜日	8:00～	症例検討会および病棟回診、術前診察、退院診察 術前処置・婦人科がん化学療法の実践、入院患者診察・IC
	14:00～	外来見学
水曜日	8:00～	症例検討会および病棟回診、術前診察、退院診察 術前処置・婦人科がん化学療法の実践、入院患者診察・IC
	午後	定期手術（帝王切開・婦人科手術）
木曜日	8:00～	症例検討会および病棟回診、術前診察、退院診察 術前処置・婦人科がん化学療法の実践、入院患者診察・IC
	15:30～	キャンサーボード
	16:00～	勉強会（抄読会、学習・研究発表、学会発表の予演会など）
	17:00～	小児科との合同症例検討会（NICU カンファレンス）
金曜日	8:00～	症例検討会および病棟回診、術前診察、退院診察 術前処置・婦人科がん化学療法の実践、入院患者診察・IC
	午後	定期手術（帝王切開・婦人科手術）

耳 鼻 咽 喉 科

1　指導医

医長（科長）　　大森　良彦（耳鼻咽喉科専門医）

医　　長　　岡　　直人（耳鼻咽喉科専門医）

2　概要・特徴

鼻咽喉科小手術はもちろん、最新の医療機器を用いた鼻副鼻腔内視鏡手術、鼻アレルギー治療を中心としあらゆる耳鼻咽喉科疾患に対応可能です。

3　研修内容

＜１ヶ月の場合＞

外来：一般耳鼻咽喉科疾患の問診・症状・所見により鑑別を挙げ、治療を行う

検査：純音聴力検査、語音聴力検査、ティンパノメトリー、拡大耳鏡、鼓膜運動検査、あぶみ骨筋反射、平衡機能検査、顔面神経麻痺スコア（柳原法）、鼻アレルギー検査、前鼻鏡検査、後鼻鏡検査、硬性および軟性内視鏡検査、嚥下内視鏡検査、静脈性嗅覚検査、間接喉頭鏡検査、耳鼻咽喉の単純レ線検査、CT 検査、MRI 検査、頸部エコー

以上の検査内容を理解し、実施・評価できる

入院：入院患者の局所および全身管理(診察、適切な検査・治療を計画できる)、正確な入院抄録の記載、各種診断書の正確な記載ができる

手術：手術に関する一般的な知識の習得、外耳異物除去術、鼓膜切開、鼻出血止血（ガーゼパッキング、鼻腔粘膜焼灼など）、鼻内異物除去、指導医の指導のもとに気管切開ができる、アデノイド切除ができる

＜２ヶ月の場合＞

上記に加えて

外来：外来救急処置、めまい、難聴、副鼻腔炎、腫瘍の診断を行う

検査：上顎洞穿刺、洗浄、唾液腺ブジー、聴性脳幹反応、T&T オルフアクトメーター、パッチテスト、甲状腺機能検査、耳鼻咽喉科 MRI、下咽頭食道造影、簡易な音声機能検査について理解・実施ができる

手術：手術に関する一般的な知識の習得、鼓膜チューブ挿入術、簡易な組織採取・摘出、

上顎洞穿刺、鼻骨骨折整復固定、鼻茸切除、頚部膿瘍切開排膿術、咽頭異物、ラリンゴマイクロ、口蓋扁桃摘出術（アデノトミーも含む）等を指導医の指導のもとに実施できる

4　主要な疾患・手技（年間）

扁桃摘出、アデノイド切除	約 40 件
鼻副鼻腔内視鏡手術	約 20 件
気管切開術	約 15 件
支持喉頭鏡下微細手術	約 10 件
頚部腫瘍切除手術	約 30 件
頚部重症感染症手術	約 5 件
鼓膜形成手術	約 5 件

5　週間スケジュール

月曜日	午前	外来
	午後	検査
火曜日	午前	手術
	午後	手術
水曜日	午前	外来
	午後	検査
木曜日	午前	外来
	午後	嚥下外来
金曜日	午前	外来
	午後	検査

放射線治療科・放射線診断科

1　指導医師

副院長（科長）　　久島　健之（放射線治療専門医）

部　　長　　山崎　愉子（放射線診断専門医、核医学専門医）

2　施設認定

日本医学放射線学会専門医総合修練機関（画像診断・IVR 部門、核医学部門、放射線治療部門）

日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設

日本核医学会専門医教育病院

日本医学放射線学会　画像診断管理認証施設（MRI 安全管理に関する事項）

日本脈管学会研修指定施設

腹部ステントグラフト実施施設

胸部ステントグラフト実施施設

浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

3　概要・特徴

臨床放射線学の中で、フィルムによるＸ線診断、MR 診断・放射線治療の実際・核医学検査の概略について研修を行わせる。

4　研修内容

(1)　基礎的事項

各種機器による標準撮影法と異常所見の指摘、鑑別診断、放射線障害とその防備をふまえたＸ線検査計画の立案。

(2)　画像診断

単純Ｘ線写真読影、消化管造影、CT、MR、RI 検査および読影、血管造影（主として胸腹部）。

(3)　放射線治療

リニアックによる放射線治療の実際について、治療計画。装置の操作を含む治療経過の観察をさせ、末期癌 QOL について理解させる。

(4)　核医学検査

甲状腺、肝、腎、心、骨、腫瘍などの RI 検査を実施し、結果を読影する。

(5)　悪性腫瘍の診断と治療

各種疾患の病期診断技術を、画像診断を中心に習得し、集学的治療として放射線療法や化学療法について修得させる。

(6)　血管内治療、画像下治療（IVR）

肝臓癌に対する化学塞栓術（TACE）、ラジオ波焼灼療法（RFA）、外傷等に対する経カテーテル塞栓術、中心静脈アクセスポート留置術、CT ガイド下生検・ドレナージを中心に、脳と心臓を除く全身の IVR を修練する。

＜研修中に修めるべき研修実績＞

画像診断の読影力を修得させる。

また、肝癌等の悪性腫瘍の症例では局所塞栓術を実施し、経過を観察させる。

5　週間スケジュール

月曜日	午前	上部及び下部消化管透視、CT・MRI・RI 検査等の読影
	午後	治療計画、CT・MRI・RI検査等の読影
火曜日	午前	上部及び下部消化管透視　CT・MRI・RI 検査等の読影
	午後	治療計画、CT・MRI・RI 検査等の読影
水曜日	午前	放射線技師との読影カンファレンス、血管造影
	午後	血管造影、CT、MRI、RI 検査等の読影
	17:30～18:30	合同カンファレンス（循環器内科、形成外科、放射線診断科）
木曜日	午前	キャンサーボード（不定期）　CT・MRI・RI 検査等の読影
	午後	治療計画、CT・MRI・RI 検査等の読影
金曜日	8:15～9:00	合同カンファレンス（消化器内科・外科・放射線診断科）
	9:00～10:00	放射線診断科読影カンファレンス、大動脈カンファレンス（不定期）
	午前	上部及び下部消化管透視、血管読影
	午後	CT・MRI・RI 検査等の読影 呼吸器カンファレンス(呼吸器内科・外科、病理診断科、放射線診断科)(月 1 回)

麻　　酔　　科

1　指導医師

部長（科長）　　渡海　裕文（麻酔科専門医・指導医、救急科専門医、集中治療専門医、温泉療法医、呼吸療法専門医、心臓血管麻酔専門医・指導医）

部　　長　　山﨑　彩　（麻酔科専門医、小児麻酔認定医）

2　施設認定

日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設

日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設

日本集中治療学会専門医研修施設

日本麻酔学会麻酔科認定病院

3　概要・特徴

(1)　多くの救急疾患を経験することにより、救急診療の臨床推論の実践・手技の向上、チーム医療を学ぶ。

(2)　救急疾患の急性期治療を各専門家の指導医とともに計画し、実践する。

4　研修内容

(1)　人形を用いた挿管の実習

(2)　全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔などの術前リスク評価

(3)　気道確保、挿管の実習

(4)　全身麻酔中の全身管理

(5)　輸液、輸血の初期研修

(6)　術後診:術中管理の適否評価

(7)　その他

術前に手術予定患者のリスク評価を行い、麻酔プランを考え、一定のディスカッションを経て当日そのプランに沿って全身麻酔、脊髄クモ膜下麻酔等を実施する。術後、病棟にて患者の状態を評価し、麻酔についての全般的な評価を行う。

救　　急　　科

1　指導医師

救命救急センター長　　櫻井　敦志（整形外科専門医、リウマチ専門医、外傷専門医）

2　施設認定

救急告示病院（救急医療機関の告示）

災害拠点病院

地域救命救急センター

日本外傷学会外傷専門医研修施設

3　概要・特徴

(1)　多くの救急疾患を経験することにより、救急診療の臨床推論の実践・手技の向上、チーム医療を学ぶ

(2)　救急疾患の急性期治療を各専門科の指導医とともに計画し、実践する

4　研修内容

(1)　救急搬入患者の初期対応・入院患者の診察

(2)　各専門科との連携

(3)　BLS、ICLS、災害医療等の講習会

(4)　カンファレンス、EBM 勉強会・学会、研究会の筆頭演者

(5)　局地災害や病院前救護の対応

5　主要な疾患・手技（年間）

１次：4,152 件　　２次：2,770 件　　３次：871 件

救急車：3,859 件　　ドクターカー：23 件　　ドクターヘリ：6 件

病 理 診 断 科

1　指導医師

医長（科長）　　加島　志郎（病理専門医、細胞診専門医、死体解剖資格）

2　施設認定

日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設

3　概要・特徴

顕微鏡画像のデジタル化・ネットワーク化技術を、本邦でいち早く採用した施設です。

病理組織画像を院内外問わず即時共有できることで、病理診断のクオリティー向上を実現します。

4　研修内容

○ 手術検体の切り出し　　○ 組織診断　　○ 病理解剖　など

具体的には、検体の扱い方、切り出し方や撮影などの創意工夫、診断に必要な知識や情報検索、臨床医とのコミュニケーションなど、将来、臨床医になった際にも必ず役に立つノウハウを伝授します。

5　主要な疾患・診断（年間）

診療科を問わず、生検採取・手術により提出された検体すべてが対象です。

組織診は年間 4,000 件程度、細胞診は約 550 件（院内診断）です。

6　週間スケジュール

月曜日		手術検体の切り出し、組織診断、細胞診断
火曜日		手術検体の切り出し、組織診断、細胞診断
	月２回	皮膚科合同カンファレンス
	月１回	呼吸器カンファレンス
水曜日		手術検体の切り出し、組織診断、細胞診断
	随時	キャンサーボード
木曜日		手術検体の切り出し、組織診断、細胞診断
	月１回	産婦人科・放射線科合同カンファレンス
金曜日		手術検体の切り出し、組織診断、細胞診断
	随時	消化器カンファレンス